

# 「縄文＝ユートピア」はホント？

西百層村遺跡群の山原平（1）  
遺跡から出土した土偶・青森県  
埋蔵文化財調査センター提供



北海道カリンバ遺跡の着飾った被葬者たちの復元図イラスト・水野美恵子さん、恵庭市郷土資料館の展示から



## 食料争奪の可能性／森林破壊も

「縄文」が注目を集めている。東京国立博物館で昨夏開かれた「JOMO」展は35万人を動員。ネットなどでは「格差も戦争もない」「自由でエコシカル」といった、理想郷のような見方も広がる。最近の研究から、縄文時代の「本道の姿」を考えてみる。

「もし、自分が『縄文時 ある』と指摘する。代に暮らしてみませんか』発掘調査の結果、津軽平野などの集落の集中場所である、大型獣からカエルまであらゆるものを食べて飢え力が増えている。現代的な意味で、彼らが環境に優しい暮らしをしてきた。『決して豊かであった』と、復元力が増えている。回断ると思いませんか』世界遺産・白神山地区を後に背に來た青森県の西百層村遺跡群。その出土品を展示する企画展「新説！白神のいにしえ」（20日まで、県立郷土館）の会場で、担当の岡本洋孝（主催は話した。同遺跡群は縄文草創期／晩期の17遺跡で構成され、土偶や人面を表現した珍しい土器類の出土が多いこと知られる。縄文文化が特に東日本で発達した理由として従来は、サケをはじめとする食料資源が豊富だったからと説明されてきた。だが岡本さんは「近くに別の集落がや黒など漆塗りの櫛や腕輪、額飾りなどの副葬品が大量に出土した。注目は

## 副葬品に「格差」

階層が生まれるのは、稲作が本格化して余剰生産物が増える弥生時代以降、縄文には格差がなかったとする従来の見方にも疑問が投げかけられている。象徴的なのが北海道釧路市郷土資料館には、多くの漆製品をまとった複数の女性がいずれも同じ場所に作られており、その地位は世襲ではなく、おぞらく一代

## 最近のゲーム感性で楽しむ

ゲームは「かわいい」などをキーワードに「純粹に感性で楽しむ」としているものが多く見られる。近年は縄文好きのアマチュアが「縄文ユートピア論」が最初に台頭したのは1970年代。旧国鉄の「ミス阿部」教授は「必ずしも言語がパブリックなイベントで書かれていないが、専門家の本よりどっつきやす

し求める動きが盛ん上がった。「漆土器などで高い文化水準を誇る一方、自然と共生した理想郷として縄文が描かれるようになった」と山田教授。他方、最近の

「縄文の人々は火を放つ心にしぎなかつた。で1平方キロあたり0.7

「縄文の人々は火を放つ心にしぎなかつた。で1平方キロあたり0.7

「縄文の人々は火を放つ心にしぎなかつた。で1平方キロあたり0.7

シについて、国立歴史民俗博物館の山田康弘教授は「遺和歌を抱く」と語る。縄文時代の人口は少なく、最多の時期でも日本列島全体で26万人程度（人口密度で1平方キロあたり0.7

「縄文の人々は火を放つ心にしぎなかつた。で1平方キロあたり0.7

「縄文の人々は火を放つ心にしぎなかつた。で1平方キロあたり0.7

「縄文の人々は火を放つ心にしぎなかつた。で1平方キロあたり0.7